

アーカイブサミット2017
2017年9月9日(土)
京都府立京都学・歴彩館

なぜ、アーカイブサミットなのか？ オープンな知識循環型社会への制度改革

東京大学大学院情報学環
吉見 俊哉

アーカイブサミット2015

日時 2015年1月26日 10:30～20:30
会場 千代田区立日比谷図書文化館

河村建夫(衆議院議員) 小坂憲次(参議院議員) 馳浩(衆議院議員 現文科大臣)

長尾真(京都府特別参与) 青柳正規(文化庁長官) 石川雅己(千代田区長)

瀬尾太一(日本写真著作権協会専務理事) 小川千代子(国際資料研究所代表)

アンドリュー・ゴードン(ハーバード大教授)

森まゆみ(作家)

御厨貴(青山学院大特別招聘教授)

小出いずみ(渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長)

福井健策(弁護士)

桶田大介(弁護士)

地域活動

中村厚生(内閣知財戦略本部アーカイブスコース議長)

大学

木戸英行(DNP文化振興財団CCGAセンター長)

目黒公郎(東京大教授)

とちぎあきら(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)

海外機関

池村(著作権課調査官)

高野明彦(国立情報学研究所教授)

博物館

柳与志夫(前国立国会図書館司書監)

原由美子(NHK放送文化研究所研究主幹)

メディア

石橋映里(日本脚本アーカイブス事務代表)

産業界

木々木秀彦(東京都美術館学芸課長)

太下義之(三菱UFJ 芸術文化政策センター長)

なぜ、アーカイブサミットが開かれたのか？

知識基盤社会からほど遠い日本の現状

- ガラパゴス問題：ヨーロッパナ、DPLAに大きく立ち遅れ、中国の急進
- バラバラ問題：図書館、博物館・美術館、文書館、大学から資料館までが分散
- 宝の持ち腐れ問題：どこに何があるか？ 誰がどうデジタル化できるか？
- 食べていけない問題：アーカイブ専門職の人件費、人文系学部の未来

日本発の価値創出

国立デジタルアーカイブセンター

- 著作権とパブリックドメインのバランス
- クリエイティブなアーキビストの持続的養成
- アーカイブの標準化・横断化・公開化

アーカイブ基本法

国立デジタルアーカイブセンター

グローバルなクリエイティブ経済をリード

何が、アーカイブサミットで話されたのか？

東日本大震災とポスト東京五輪2020をつなぐ射程のなかで構想する

防災をコストから**バリュー**に変える(目黒)

記憶を「**見える**」状態にする(御厨)

プライベートを超える**コモンズ**をつくる(生貝)

全国の行政の公開情報をデジタルで**統合化**する(古賀)

現場の知

『谷中・根津・千駄木』(森)

- 地域の記憶と記録に変える
- 記録をアーカイブ化する
- 地域の記録人を育てる
- 地域アーカイブを**結ぶ**

震災アーカイブ(ゴードン)

- 保存
- **ネットワーク**
- 発見
- **参加**

政策の知

国立デジタルアーカイブセンター
アーカイブ基本法

情報/知は誰のものか(吉見)

- デジタルはすべてを記憶する(忘れない社会)
- 情報は使っても減らない(価値は増える)
- 諸アーカイブを**つなぐ横串**(金、人、法、技術)

国立デジタルアーカイブセンターの設立(福井)

- 国の横断的なデジタルアーカイブ振興基本計画
- 諸アーカイブを**横串にネットワーク化**する仕組み
- オープンデータ化
- 多言語発信

何を、アーカイブサミットで宣言したのか？

アーカイブ立国宣言

- 国立デジタルアーカイブセンターの設立
- デジタルアーカイブを支える人材の育成
- 文化資源デジタルアーカイブのオープンデータ化
- 抜本的な孤児作品対策

価値の創造（儲かる）

人の問題

- ① 学位・資格への共通カリキュラム
- ② 新たな専門職の理念・マインド
- ③ 職制の再定義
- ④ プロジェクトの経験
- ⑤ 養成機関とキャリアパス

法の問題：孤児作品対策

- ① 不明の程度、分量、利用主体、態様に応じて複数制度を組み合わせる
- ② 保存目的のデジタル化につき31条2項の主体の範囲を一定程度拡大

お金の問題

- ① 公的資金の「使い方」の改善
事業分野で分散する公的資金の統合的活用、特に人件費の柔軟な供出
- ② 商業的利用の開拓
アーカイブの量と多様性が価値を生む
- ③ アーカイブのコスト低減
権利処理の効率化
- ④ 「なぜアーカイブなのか」の明確化
知識インフラの重要性の理解拡大

残された課題は何か？

疑問点

- ① 文書館への視点が欠落していないか？
- ② 内容が文化芸術分野に偏っていないか？
- ③ オープンデータ化がビジネスに益する仕組みをどう作るのか？
- ④ 全体的な方針を出す以前に個別アーカイブが脆弱だ？
- ⑤ 国家主導の政策は地方のアーカイブを疎外しないか？
- ⑥ 閲覧者ではなく作り手としての市民、草の根への視点が欠落していないか？
- ⑦ 国内アーカイブ機関の横の連携、連動のデザインをどう考えるか？



解決の方向

- ① この場にはいない担い手・地域との連帯
- ② 職場・業界のリテラシー、一般のリテラシーの向上
- ③ より大胆な提言の可能性
- ④ ベストプラクティスの共有化
- ⑤ ベストカリキュラムの検討
- ⑥ 方法としてのデジタル化の推進
- ⑦ 文化資源の保存・活用の価値の明確化

アーカイブサミット2016

日時 2016年6月3日 13:00～20:30
会場 千代田区立日比谷図書文化館

基調講演 中山信弘

基調報告

- 1 アーカイブサミット2
- 2 TPP加盟に関する
- 3 めざすべきナショ
生貝直人

著作権

私的所有とパブリックドメイン
知の公共性と価値形成
アーカイブ推進基本法

特別企画シンポジウム

著作権消滅。 社会資本としてのパブリックドメイン

大久保ゆう[青空文庫]/ 野口祐子[弁護士]/ 平田オリザ[演出家]

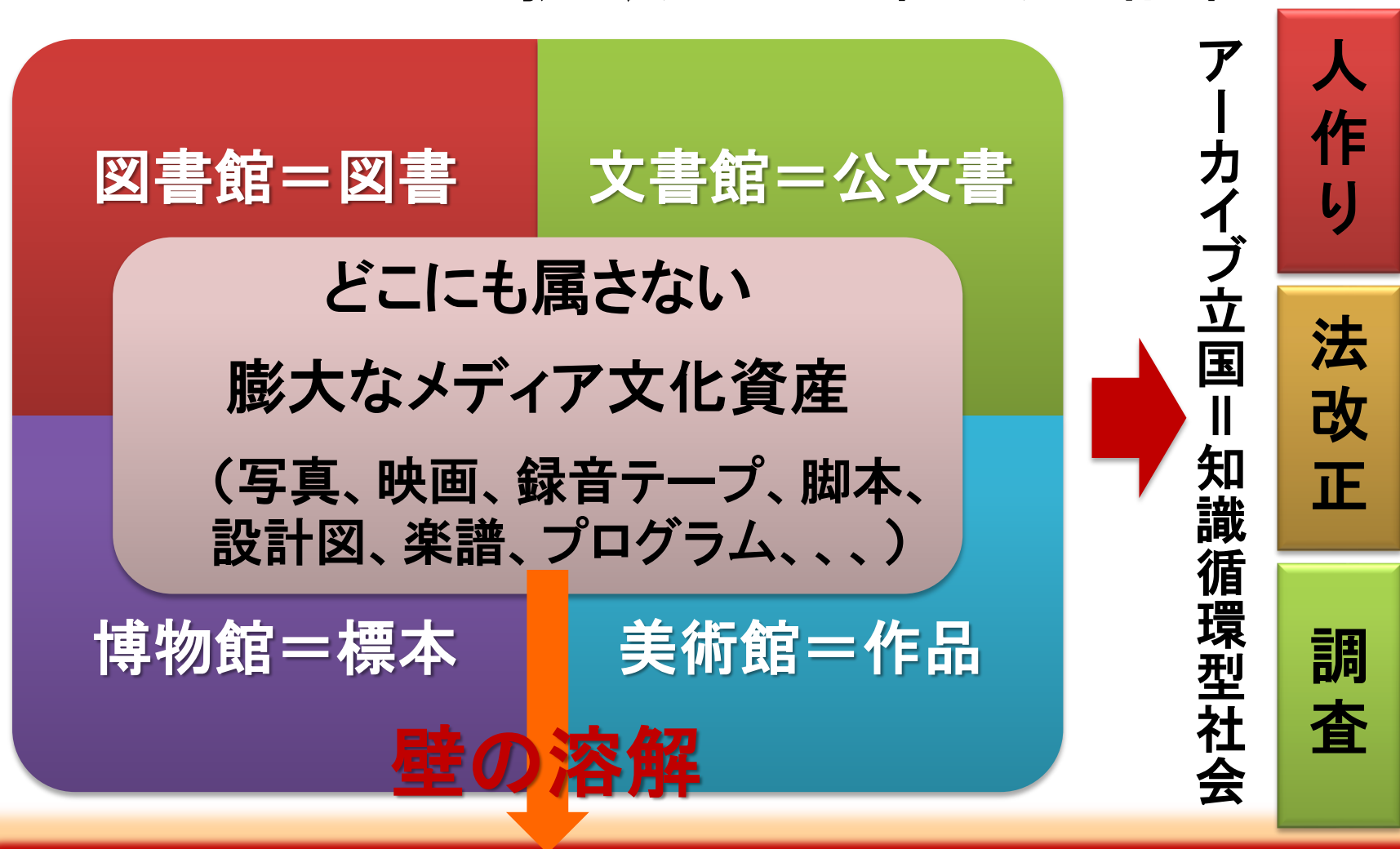
1. 文化的・社会的価値をうむアーカイブ 沢辺均[ポット出版]
2. アーカイブで儲ける 赤松健[漫画家]

シンポジウム アーカイブを使えるものにする

赤松健[漫画家]/瀬尾太一[日本写真著作権協会]/宮本聖二[ヤフー]

閉会宣言 長尾真

デジタル化で拡張された社会の記憶力



「デジタル時代における『オリジナルの消失』は、アーカイブス学の大きなパラダイムシフトに向かわせます。……アーカイブス学は、紙と羊皮紙の世界で通用した概念だけではもう間に合わなくなっているのです」(エリック・ケテラール, 2004)

第二の情報革命：ネット社会と知の劣化？

16～18世紀

出版産業(本・雑誌)→読者市場

19～20世紀

新聞産業→購読者／国民

20世紀

放送産業→視聴者／国民

想像の共同体



マスメディア
社会

文化の大量生産



消費する大衆

マスメディア型社会の終焉



人間は、賢くなるか？

ネット社会 → 情報爆発
フィルターバブル＝ポスト真実

ちっとも賢くなっていない！

2つの情報爆発におけるフローとストック

フローの爆発だけではなぜダメなのか

第一の情報爆発：印刷革命＝大量複製

- マスメディア（出版、新聞、放送）の公共圏
- 図書館、博物館、美術館の発達と公開＋活用

第二の情報爆発：デジタル革命＝大量発信

- ソーシャルメディア（インターネット）の公共圏
- デジタルアーカイブの発達と公開＋活用

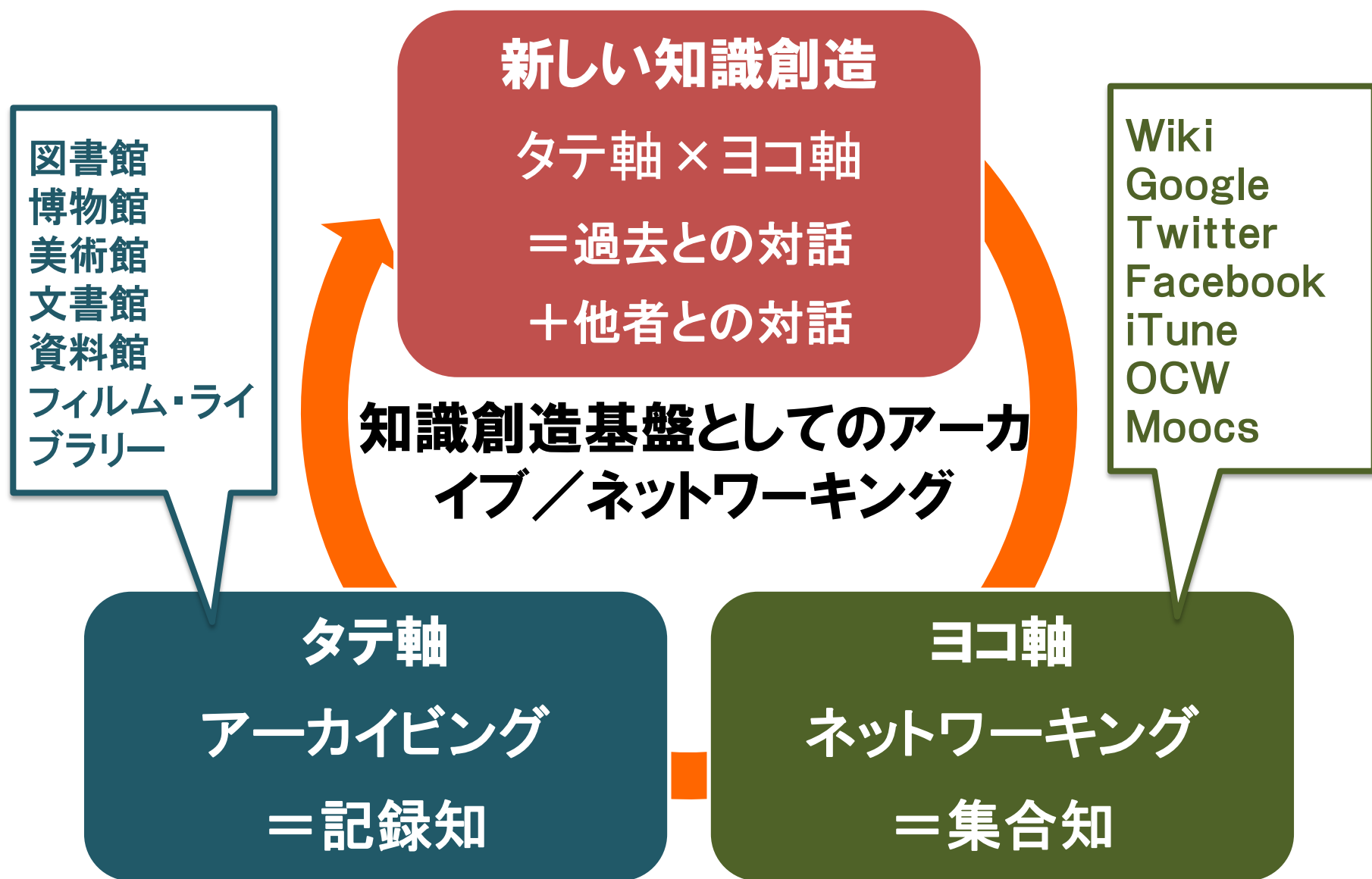


記録知（アーカイビング）

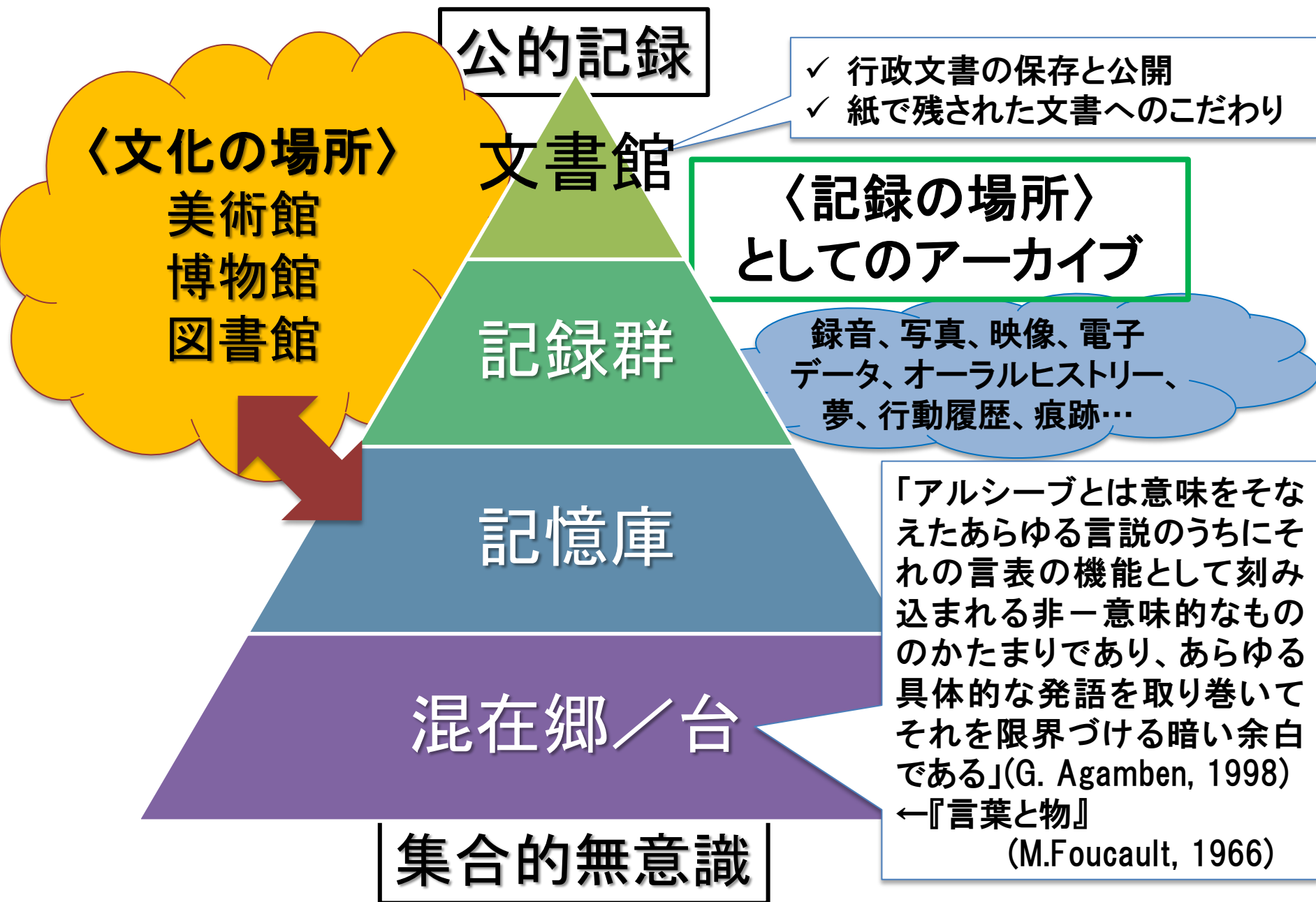
集合知（ネットワーキング）



集合知と記録知を統合させる知識循環の必要



アーカイブ＝記録知を構成する4層



暗黙知/形式知の創発循環としてのアーカイブ

図書館

活用

(議会図書館 政策)
(大学図書館 研究)
(専門図書館 業界)
(学校図書館 教育)
(公共図書館 地域)



研究成果

(図書出版)



調査研究

(執筆者)

形式知

オーラルヒストリー
個人文書、活動記録…

目録化



記録化



言語化

暗黙知

文書館

活用

(検証、政策、参照)



文書記録

(行政文書)

(法人文書)

(郷土資料)



組織内活動

(事務組織)

個人的実践



組織的実践

結果の保存から対話的プロセスの保存へ アーカイブとしての図書館/美術館/博物館とは何か



アーカイブ

制作プロセス

(脚本、設計図、証言、
写真、DNA……)



図書館・
ミュージ
アム

作品・標本

(結果としての
制作物)

これまでの文書館

これまでの図書館・美術館

デジタルアーカイブ社会＝すべてを記憶する社会

データサイエンスへの政策的潮流を利用する

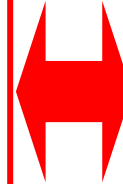
確率的予測:

- 天気予報
- 選挙予測
- 株式予測
- 需要予測
- 景気予測(中期)
- 人口統計(長期)



ビッグデータ解析:

- 消費者行動
- 農業経営
- 交通システム
- エネルギー需要
- 災害対応
- DNA解析



データ
サイエ
ンス

AI
可視化
IoT

国家／行政



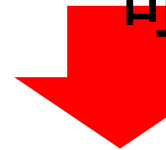
産業／国家

デジタルショック

可視化

可視化＝情報公開

＝データサイエンス



個人／社会

アルゴリズム的な監視社会？
フィルターバブル: アマゾンの推薦
ポスト真実

データサイエンスとデジタルアーカイブの間

抽象された空間のなかでの
諸個人のデータ化

抽象された連続的データ空間



断裂を含んだ歴史・社会

抽象化

データ
マイニング



記録群
F



記録群C

パラダイム
B

パラダイム
C

パラダイム
A



記録群E



記録群D

デジタルアーカイブにおける
非連続的記録

歴史化



オープンな知識循環型社会への制度改革

実践と批判、そして制度改革への架橋のために

- デジタルアーカイブ推進議員連盟

国会

- デジタルアーカイブ推進コンソーシアム
DAPCON

産業界

アーカイブサミット

研究機関

- デジタルアーカイブ研究機関連絡会

学会

- デジタルアーカイブ学会
JSDR



日時 2017/7/22 (土) 10:20 - 18:35
主催 デジタルアーカイブ学会 岐阜女子大学
場所 岐阜女子大学 文化情報研究センター

デジタルアーカイブ学会
第1回研究大会
「デジタルアーカイブの拓く未来」

アーカイブサミット2017

災害アーカイブ

著作権

多言語発信

空間情報

オープンデータ

パブリックドメイン

文化資源

商業利用

アーキビスト育成

クールジャパンの資源化

標準化

京都

アーカイブ活用

社会化するアーカイブ

デジタルアーカイブ推進のための基本法はいかにあるべきか？